

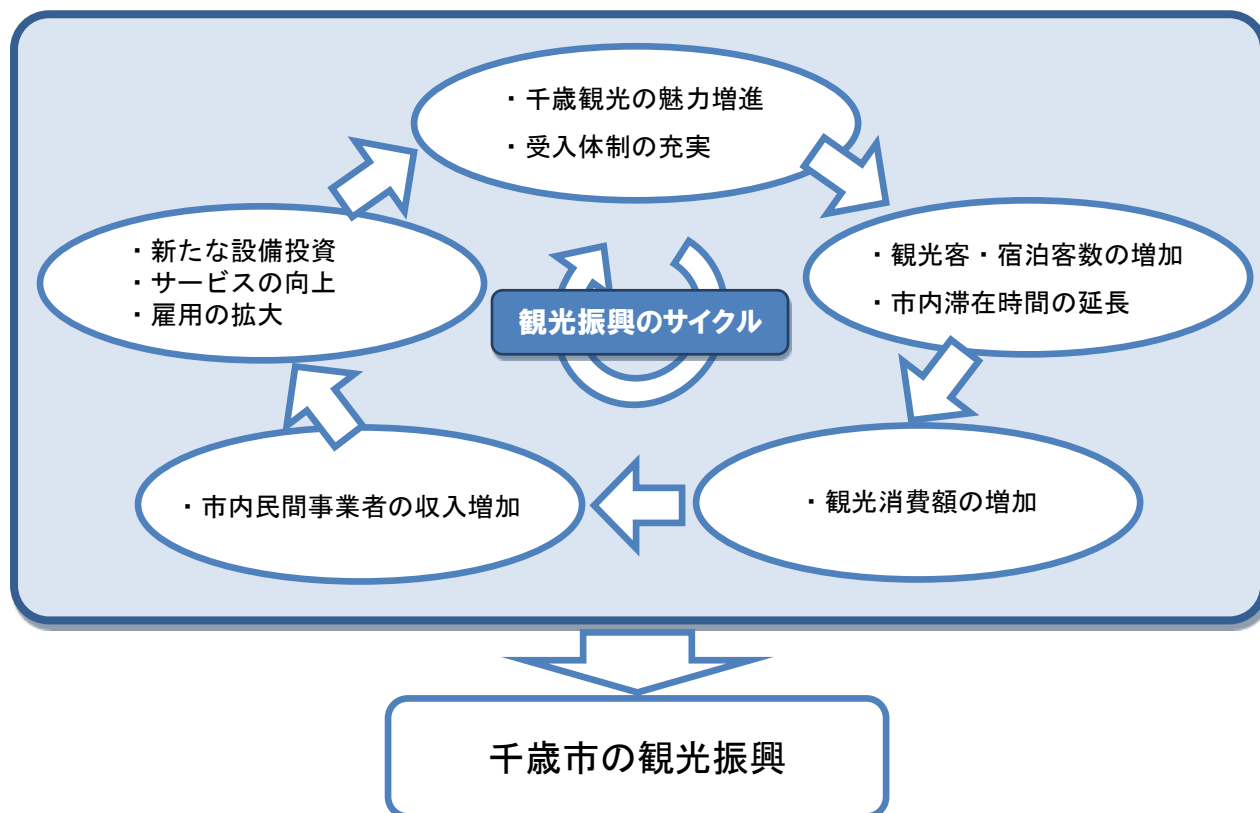
観光消費額が市民生活に与える影響について

- ・ 1人当たりの宿泊数の増加，消費額の増加を目的・軸にするということについて、観光振興や観光消費の増加が、函館市民の生活に対してどのような影響をもたらすか、これまでも話としては出てきている概念ですが、地域循環の図をお示ししながら説明させていただきます。
- ・ この地域循環の概念では、観光振興による観光消費額の増加が市民生活に良い影響をもたらすことを理解していただくことで、積極的な市民参加や「函館愛」の醸成につながっていきます。
- ・ 観光消費額の増加が市民生活に与える影響に関する説明方法の事例として、「千歳市観光振興計画」と「京都観光振興計画 2025」をご紹介します。
- ・ 現在作成中の「函館市観光基本計画」においても、このようなわかりやすい表現を用いて観光産業の振興が函館市民に良い影響を与えることを示していきます。

①千歳市観光振興計画

- ・ 千歳市は、新千歳空港に数多くの観光客が来道するものの、JRやレンタカーに乗り換えて素通りされてしまうことが多く、市民の観光に対する関心が高くなりづらい状況にありました。
- ・ 千歳市観光振興計画の中では、観光振興策の推進により、観光客数や消費額が増加することで千歳市内の民間事業者の収入増加につながり、結果的に千歳市民の雇用拡大や市内の設備投資につながっていくという流れを、「観光振興のサイクル」という考え方で説明しています。

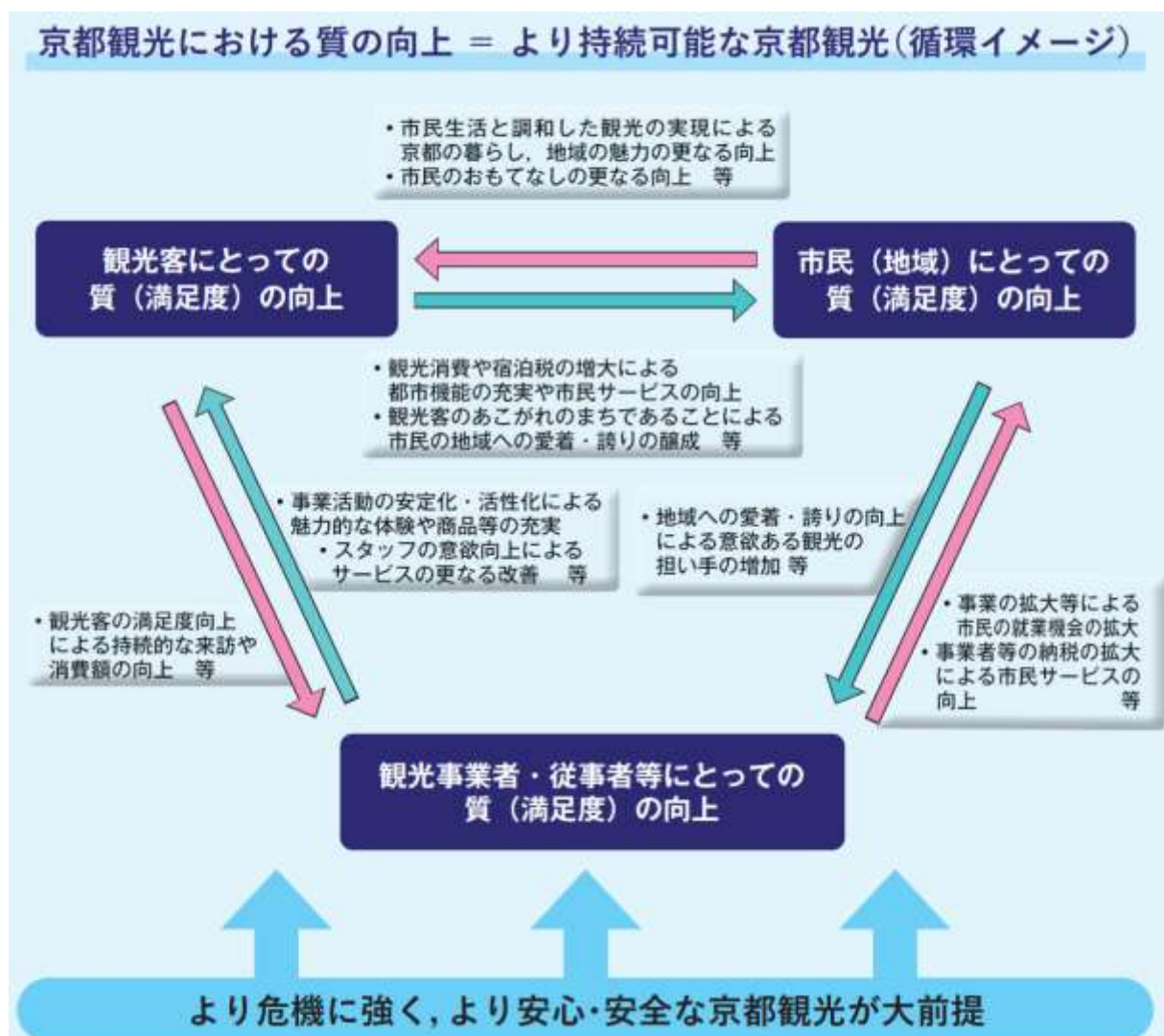
《観光振興のサイクル》



資料：千歳市観光振興計画（平成 23 年 3 月、千歳市）

②京都観光振興計画 2025

- ・京都市では、インバウンドを含めた観光客の急激な増加により、市民が路線バスに乗車できない、歩道を歩くのにも苦勞するといった弊害（オーバーツーリズム）が課題となっています。
- ・令和3年3月に策定された「京都観光振興計画 2025」の中では、京都市の観光目標を『市民の安全・安心、地域文化の継承を最重要視した市民生活と観光の調和』としており、観光と市民生活の共存、観光の質向上へと計画の中身が変化してきています。
- ・計画の中では「観光客」「市民」「観光事業者・従事者等」のそれぞれが果たす役割や享受する恩恵を示した「循環イメージ」を掲載しています。
- ・「市民」は、地域への愛着・誇りを向上させて観光の担い手になる・観光客をもてなすという役割を果たす一方で、就業機会の拡大・観光消費や宿泊税の増大による都市機能の充実・市民サービス向上といった恩恵を受けることができます。

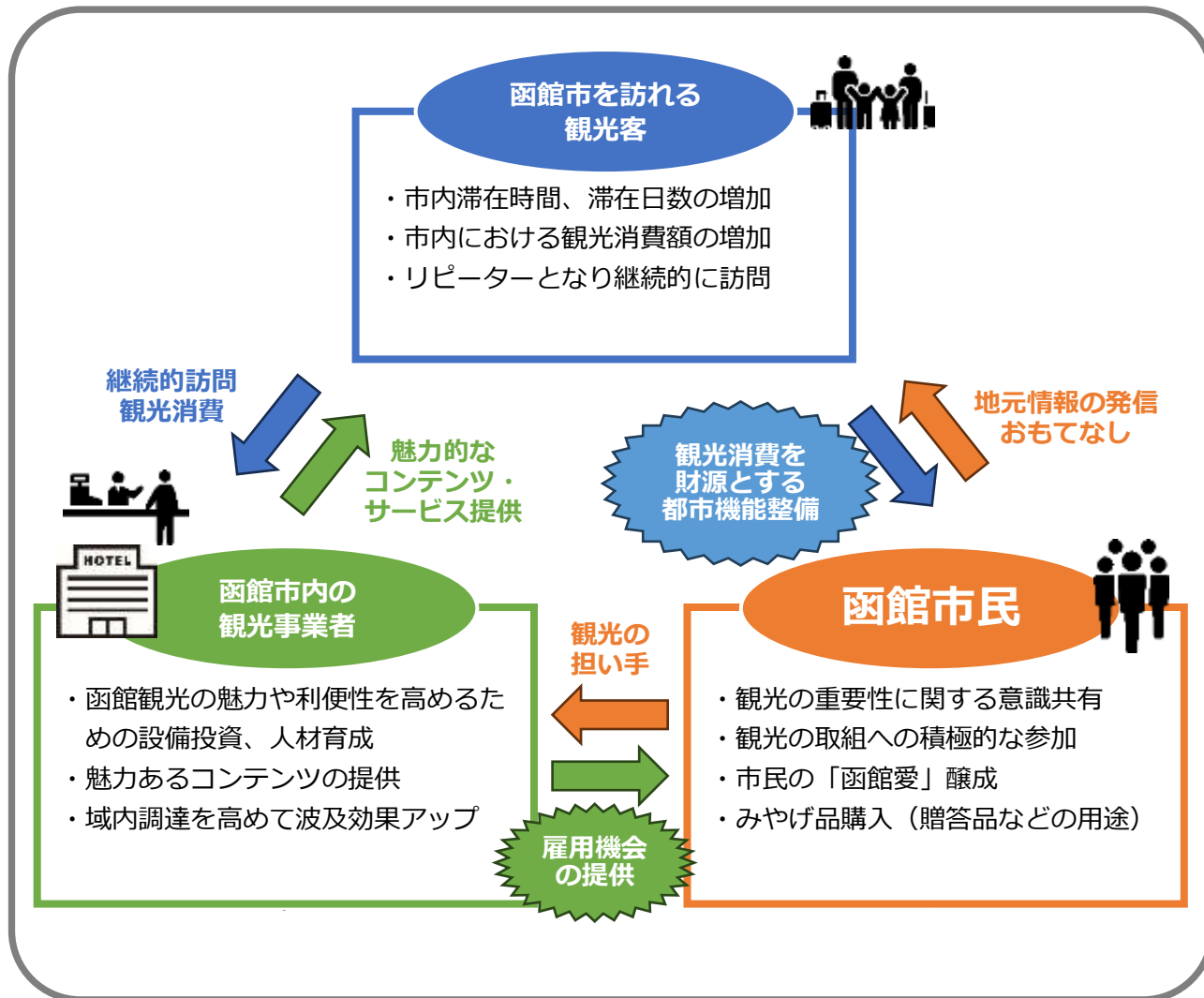


資料：京都観光振興計画 2025（概要版）（令和3年3月、京都市）

③函館市観光基本計画における地域循環のイメージ（案）

- ・函館市観光基本計画における観光振興の取組によりもたらされる観光消費額の増加が、函館市民の生活にどのような影響をもたらすのかを説明するイメージ図を作成し市民の理解を深めることで、積極的な市民参加や、「函館愛」の醸成につなげていきます。

【函館市内の観光消費額が市民生活に与える影響のイメージ（案）】



観光経済波及効果について

- ・函館市を来訪した観光客による消費（宿泊、飲食、土産品、アクティビティ等）は、地元の観光関連産業の売上拡大をもたらします。（**直接効果**）
- ・観光関連産業は、宿泊施設における食材仕入りネンや清掃サービス等の発注拡大等、他の産業にも波及します。（**一次波及効果**）※地域内の取引が盛んな地域ほど効果が大きくなる。
- ・さらに、観光関連産業及び他産業への需要拡大に伴う従業員の所得増加が、買物等の消費拡大を通じ、さらなる経済波及効果をもたらします。（**二次波及効果**）

■ポイント

- **観光経済波及効果は、観光関連産業のみならず、一見無関係に映る産業へも波及している。**（「観光で儲かるのは宿泊施設、飲食店、土産品製造業者だけ」という考え方は俗説）
- 言い換えれば、「**観光客が来なくなると、観光関連事業者のみならず、他の産業にも影響が出る**」ということになる。
- **地域内の取引が大きいほど、観光消費が地域に留まる（域内循環）**

例）北海道で837億円の新規観光消費が発生した場合の波及効果（**1,347億円**の生産誘発）

(単位：億円)

部門分類	最終需要額	生産誘発額			合計	粗付加価値誘発額	雇用者所得誘発額	分類
		直接効果	1次生産誘発効果	2次生産誘発効果				
農業	15	5	19	4	29	13	2	農
林業	0	0	2	0	2	1	0	林
漁業	0	0	9	1	10	6	2	漁
鉱業	0	0	0	0	0	0	0	鉱
製造業	92	28	71	22	120	44	14	製
建設	0	0	2	1	3	2	1	建
電気・ガス・水道	0	0	66	12	78	46	19	電
商業	0	36	40	34	111	81	46	商
金融・保険・不動産	0	0	26	57	83	66	11	金
運輸・情報通信	191	143	56	23	222	124	67	運
公務	0	0	1	1	2	2	1	公
サービス業	536	536	86	55	677	334	186	サ
分類不明	4	3	5	1	9	4	0	分
合計	837	752	383	212	1,347	722	350	計

(注)四捨五入の関係で、内訳の合計と合計項目の値が一致しないことがある。

一次産業、製造業、金融・保険・不動産業、
サービス業等に広範に波及

市民との認識
共有も重要

事例) 産業関連の重要性を地域内事業者や市民が共有

- ・釧路市：他産業への経済波及効果を明示し、農協・漁協等の観光への協力意識が高まった
- ・紋別市：簡易分析で観光の経済波及効果に注目。2年後、紋別市独自の産業関連表を作成

観光消費費目の内訳

観光消費費目		産業連関表における部門
交通費		49_運輸
宿泊費		59_宿泊業
飲食費		60_飲食サービス
買物代	農産品(果物・野菜・花など)	01_食用耕種農業
	農畜産加工品(ハム・乳製品など)	09_畜産食料品
	その他の食料品(お菓子・お酒・弁当など)	12_その他の食料品
	電器製品(カメラ・電池など)	35_電気機械
	水産品(鮮魚・魚介類など)	10_水産食料品
	水産加工品(干物・練製品など)	10_水産食料品
	繊維製品(衣料品、帽子など)	16_衣服・その他の繊維既製品
	その他の製造品(化粧品・ガラス製品など)	29_窯業土石製品
娯楽等サービス費		61_娯楽サービス
その他		62_その他の対個人サービス



入込客拡大はオーバーツーリズムに陥るリスクあり
(稼働状況によっては受入可能人数を上回る可能性も)



入込客数を増やさず、観光消費単価、一人あたり宿泊日数、
1人あたり観光消費額等を増やす方向性を検討(量より質)

・1人あたり観光消費額の拡大

⇒①観光消費項目別の消費額拡大検討の必要性

例: 宿泊料、飲食、土産品等の高付加価値化

⇒②1人あたりの平均宿泊数を増やす(延泊→消費拡大)

⇒リピート化による、入込客数変動リスク減



観光消費額をより地域内で波及させるには・・・



・域内取引の拡大

⇒観光客の消費を地域内に留め循環させる

例: 地域の素材を使った土産品の製造強化

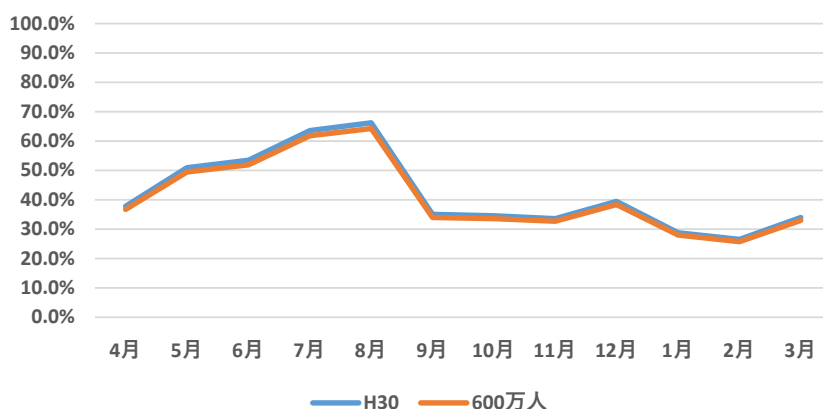
地域内の事業者同士の取引拡大

市民の協力も追い風に⇒例: 土産品を贈答用として購入

■参考) 宿泊施設の定員稼働率、客室稼働率

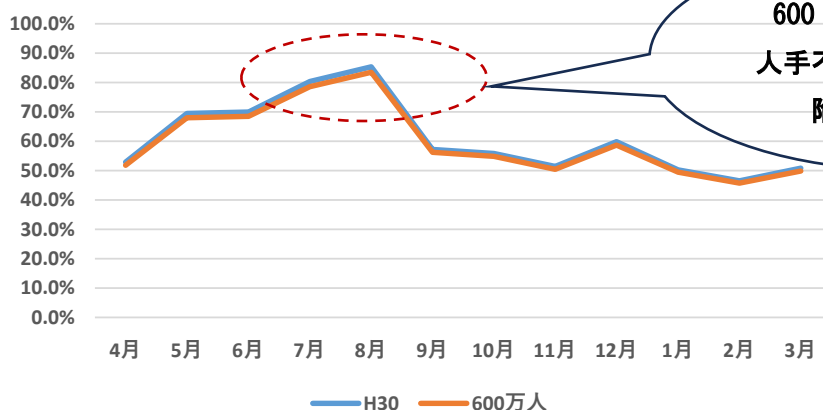
- ・平成 30 年（観光客数 526 万人）の宿泊施設の定員稼働率をみると、ピーク時に 70% 近くまで上昇している。
- ・観光入込数が 600 万人に達したと仮定し、現状の宿泊施設に基づく定員稼働率をみると、宿泊施設も増えているため、平成 30 年の動向と大きな差はみられない。
- ・定員稼働率（全国平均、月次）は概ね 35～50% で推移しており、これと比較すると ピーク時に 70% となる函館市の定員稼働率は高い。

宿泊施設の定員稼働率



- ・北海道全体の客室稼働率と定員稼働率を比較すると、客室稼働率は定員稼働率を概ね 15～22% 程度上回っている。この差分を上図の定員稼働率に加えて客室稼働率を推計すると、8月のピーク時には 90% 近くに達し、宿泊施設が人手不足等で客室をフル稼働できない場合受入不能に陥るリスクがある。

宿泊施設の客室稼働率 (推計)



注 1) 宿泊施設の定員稼働率 = 宿泊客数 / 宿泊施設定員数

注 2) 宿泊施設の客室稼働率 = 利用されている客室数 / 客室総数

注 3) 入込客数 600 万人のケースは、H30 の入込客数 (526 万人) が 600 万人に増えた場合のシミュレーション

■参考) 観光消費の時系列比較 (R1、R4)

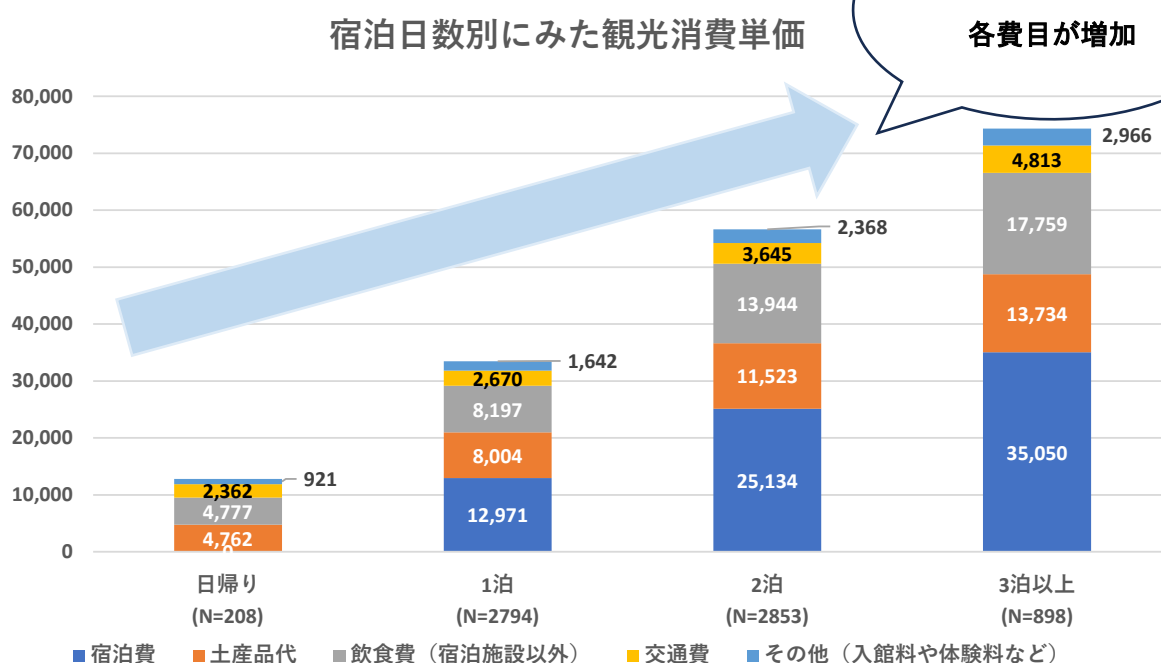
- ・R4の宿泊費はR1と比較して低くなっているが、元々変動が大きいことや、旅行割の影響もあると考えられる。
- ・同様に、土産品や飲食費についてもクーポン券の影響でR1を下回っている可能性があるが、宿泊費と比較して変動が小さく、多様化、高付加価値化が成果を得やすい費目と考えられる。

	国内客		訪日外国人
	R4函館市	R1函館市	R1函館市
宿泊費	19,465	20,478	20,116
土産品代	10,162	11,708	14,441
飲食費(宿泊施設以外)	11,803	10,301	14,695
交通費	3,360	3,597	6,093
その他(入場料や体験料など)	2,104	2,982	5,196
合計	46,894	49,066	60,541

土産品代、飲食費に拡大の余地あり

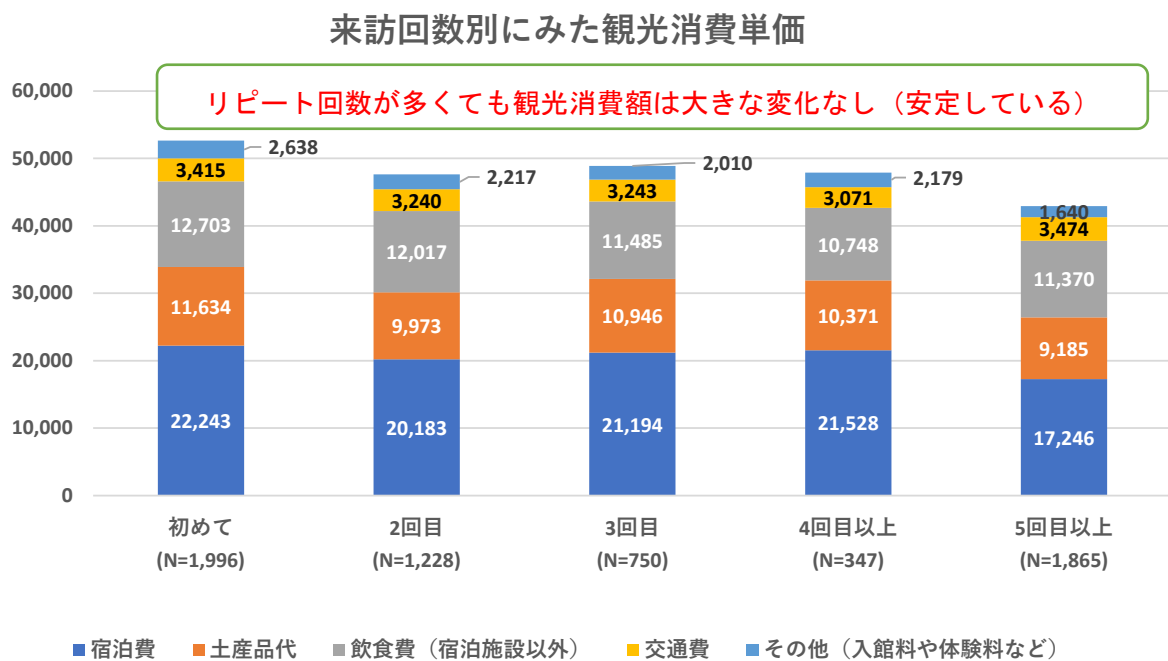
(資料) 函館市は、「観光動向調査」(R1、R4)

■参考) 宿泊日数別にみた観光消費単価



(資料) 令和4年度函館市観光動向調査

■参考) 来訪回数別にみた観光消費単価



(資料) 令和4年度函館市観光動向調査